

令和7年度 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像
 ・自分のよさを知り、人とつながり協働する子 ・将来にゆめや希望を持ち、その実現に向けて粘り強く努力する子

堺市立錦西小学校
 校長 佐藤 憲治

令和7年度 重点目標
 学校教育目標である「心身ともに健康で、地域を愛し、共に喜び合い、自己実現をめざす児童の育成」を具現化するために、安全・安心で、子ども一人ひとりの居場所と教職員をはじめとする「チーム錦西」のそれぞれが躍動する場(「出番」)を創出する、楽しく、活気ある学校づくりを目指す。

【重点取組】①「総合的な学力」の育成に向け、ICTの効果的な活用や子どもたちの「対話」・「協働」を促す授業改善等による多様な学びの実践
 ②豊かな心の育成・笑顔あふれる学びの場づくり ③健やかでたくましい体の育成 の3つの取組を進めていく。

<p>「確かな学び」の現状 ・令和6年度の「全国学力テスト」「すくすくウォッチ」では、国語の故事成語や漢字の正答率の低さ、計算や基礎的な学力を問う問題におけるつまずきが見られた。 ・理科においては、学習用語を適切に使えていないという課題も見られた。 ・継続して基礎的な問題に取り組む時間(復習中心)を確保し、各教科の積み残しをなくしていく必要がある。 ・自ら進んで学ぶ習慣を身に付けさせるために、家庭と連携した家庭学習を充実させる必要がある。 ・堺市学調の「自分に合った勉強の仕方を考えている」では、肯定的な評価が68.2%であったことから、自分に合った学びを選択できる新たな授業形態に取り組む必要がある。</p>	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状 【豊かな心】 ・相手の気持ちやその場の状況を考え、自分の思い、考えをもって行動していく道徳的判断力が養えるよう、道徳の授業を中心とした指導を継続していく必要がある。 【健やかな体】 ・体力テストの結果では、総合力の高い児童と低い児童の二極化傾向が見られる。 ・二極化傾向を分析すると、1週間の運動時間の長い児童は総合評価が高く、運動時間が短い児童は総合評価が低い。 ・体育科の授業の充実を図り、技術を身につけたり体力を高めたりする必要がある。</p>
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (11月)	達成状況(年度末)		
								自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	基礎・基本の定着	基礎基本の学習内容の定着を図る。	●朝学で漢字、計算練習ほかの基礎的な問題に取り組む。基礎学力を定着させる。 ・発達段階に応じて、問題文を読み取る力を高めるための作文指導や語彙力向上のための辞書を活用した学習を推進する。 ・朝の読書、家庭読書活動を充実させる。	・漢字、計算等の理解度確認テスト ・読書を啓発する取組	・児童の基礎的な問題の理解度 ・実施状況(啓発の取組、図書室利用(人数、冊数)状況等)	11月 1月～2月	○	●朝学で児童の実態に合わせて漢字、計算練習ほかの基礎的な問題に向かうことを習慣付けさせるなど基礎学力を定着させる取組ができた。ただし、学級ごとに頻度にばらつきがあり課題であることから、次年度以降は朝学習の意義を全校で再確認して、取り組む必要がある。 ・発達段階に応じて、作文指導や語彙力向上のための辞書を活用した学習を推進した。	●基礎学力を定着させる取組ができていた。また、課題があるものの課題が何か明確になっているため、引き続き取り組むことを期待する。 ・語彙力向上などについては、1年という短い期間で定着するものではないと思われるので、検証等を行うことは有効である。	
			●「家庭学習の手引き」や家庭との連携により、児童自らが主体的に取り組む家庭学習を充実させる。 ・「知りたい」「なぜ、どうして」等、学びへの興味・関心、好奇心を引き出すような家庭(自主)学習を推進する。	・家庭学習を主体的に行う意識を向上させるノートグランプリ等の取組 ・興味・関心、好奇心を引き出す動機づけの取組	・実施状況(意識向上の取組状況等) ・実施状況(動機づけの取組状況等)	随時 11月 1月～2月	○	●「家庭学習の手引き」や家庭との連携により児童自らが主体的に家庭学習に取り組む意識を高めることができた。 ・ノートグランプリのノート掲示の更新の頻度多くすることにより、児童の学びへの興味・関心、好奇心を引き出すよう工夫し、家庭(自主)学習を推進させている。	●家庭学習を継続的に取り組み、習慣付けすることはできている。 ・自主学習の仕方やテーマ設定などに戸惑いがある児童もいると思われるので、フォローアップを期待する。	
	●★ICTを活用した「個別最適な学び」と他者と関わりながら、より良い学びを生み出す「協働的な学び」を実現することにより、多様な学びへの対応を実践する。 ★発達段階に応じた情報活用能力を育成する。	・ICTを効果的に活用した授業 ・授業形態の工夫	・実施状況(ICTの活用、授業形態の工夫状況等)	11月 1月～2月	◎	●★学校群公開授業を機会とした授業改善に組織的に取り組み、ICTを活用した多様な学びへの実践例を100以上蓄積している。 ★研究ミーティングを新設し、発達段階に応じた情報活用能力を育成に向けた議論、情報共有の場としている。	●★学校群公開授業を機会とした授業改善に組織的に取り組むことにより、ICTを効果的に活用した多様な学びへの実践例、先進事例を数多く蓄積することができた。 ★研究ミーティングを新設し、議論、研究、教育を実践することにより発達段階に応じた情報活用能力を育成に向けたことができた。	●★月洲学校群の公開授業を機会として、ICTの効果的な活用、授業改善が進んでいる。 ★発達段階に応じて、全学年で情報活用能力を育成する手法などを検討し、そのことを全体で共有できている。		
	授業改善	ICTを効果的に活用し、「主体的、対話的で深い学び」の視点による授業を実践する。	●「学習のめあて」「今、何を学んでいるか」「今日の学習で何が分かったか」を明確にした授業を行う。	・児童のノート ・児童の「ふりかえり」による学びの整理 ・児童の発言	・実施状況(児童のノート、ふりかえり、発言内容の変化等)	随時 11月 1月～2月	○	●「学習のめあて」の提示とふりかえりでの確認を継続することにより、「今、何を学んでいるか」「今日の学習で何が分かったか」を明確にする授業が行われている。	●「学習のめあて」の提示とふりかえりでの確認を継続することにより、「今、何を学んでいるか」「今日の学習で何が分かったか」を明確にする授業ができた。	●各学級でのばらつきはあると思われるが、意図を明確にした取り組みが行われている。

豊かな心	豊かな心の育成	人権教育を基盤とし、自分も他人も大切に、お互いに認め合える心豊かな児童を育成する。	・あらゆる教育の場で、子どもの自己肯定感や自尊感情を醸成する。 (あいさつ指導の徹底、異学年交流・なかまづくり)	・自己肯定感や自尊感情を醸成させる取組や児童の縦、横の繋がりを深くする交流機会	・実施状況(醸成させる取組、交流機会の状況等)	11月 1月～2月	○	・学校生活そのものが、あらゆる教育の場であることと捉えて、子どもの自己肯定感や自尊感情を醸成に向け職員全員で取り組んでいる。	○	・各月に設定した目標や学校生活そのものがあらゆる教育の場であることと捉えて取組を実施したことにより、子どもの自己肯定感や自尊感情を醸成することができた。	○	・あいさつ運動、異学年交流、委員会活動などの機会を通じて、児童の縦、横の繋がりを深めるきっかけ作りを行い、自己肯定感や自尊感情を醸成に努めている。
			・「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見に努め、情報共有し組織的に対応する。	・いじめの未然防止のための啓発授業等の取組	・実施状況(啓発の取組状況等)	11月 1月～2月	△	・いじめの未然防止・早期発見を行うための、発達段階に応じた(特に低学年)啓発、指導がこれまでに以上に重要となっており、その啓発、指導を行うための体制作り、職員研修等を検討している。	△	・いじめの未然防止・早期発見に努め、情報共有し組織的に対応できた。一方で、その対応については、職員が常に高い意識を持ち対応すること、また発達段階に応じた(特に低学年)啓発、指導が必要なことの2つについては、次年度以降も継続した取組が必要である。	△	・課題としているの2つについては、次年度以降も継続して取り組んで欲しい。また、不登校にならないような予防的取組の強化も期待する。
			・一人ひとりの道徳的価値観・判断力を育む「考え、議論する道徳」の実現を目指し、指導方法の改善を図る。	・道徳の授業以外も含めた道徳的価値観・判断力を育むための指導方法の工夫	・実施状況(指導方法の工夫状況等)	11月 1月～2月	○	・「考え、議論する道徳」の実現に向けた取り組みの成果、課題を月次で報告、議論することで指導方法の改善を図っている。	○	・「考え、議論する道徳」の実現に向けた取り組みの成果、課題を月次で報告、議論するR-PDCAサイクルで指導方法の改善を図った。	○	・道徳教育を通じて、社会のきまりなどを理解し、行動できる児童を育てて欲しい。
			・特別な教育的ニーズのある児童に対し、全校で支援する体制を構築する。 ・子どもの特性に応じた指導・支援の充実を図る。	・教育的ニーズの把握とそのニーズに応える組織的な取組 ・特性に応じた指導・支援を行うための取組等)	実施状況(ニーズの把握・対応、特別支援校内研修の状況等)	11月 1月～2月	○	・8月末から校内委員会を設置して、全校で支援する体制を構築するとともに、子どもの特性を把握し、そのニーズに応じた指導・支援の在り方を委員会で検討している。	○	・校内委員会の設置、教育相談の実施により、特別な教育的ニーズのある児童に対し、全校で支援する体制を構築できた。 ・SC、SSW、外部専門家とも連携して、子どもの特性に応じた指導・支援の充実を図り、児童の心理的な安定を維持することができた。	○	・全校で支援する体制ができています。 ・SC、SSWに加えて、子ども相談所、子育て支援課等、学校外部の関係部署とのさらなる連携も進めて欲しい。
健やかな体	健やかな体の育成	健やかでたくましい体を育む。	【体力向上に向けて】 ・体育科授業の充実を図り、十分な運動量を確保する。 ・運動する喜びを味わえるような体育的行事等の充実を図り、年間を通じた体力づくりを実施する。	・「小学校体育指導の手引」の積極的な活用 ・体育的行事等による体力づくりの効果	・実施状況(手引の活用状況) ・実施状況(体育的行事等の状況、体力テストの推移等)	11月	◎	・ICTを活用するなど工夫して体育科授業の充実を図り、十分な運動量を確保している。 ・大縄大会、親子交流会、異学年交流などの体育的行事等の充実を図り、年間を通じた体力づくりを実施している。	◎	・ICTを活用するなど工夫して体育科授業の充実を図り、十分な運動量を確保ができた。 ・大縄大会、親子交流会、異学年交流などの体育的行事等の充実を図り、年間を通じた体力づくりを実施している。一方で、「猛暑」などの外部環境の変化より、運動量の確保が難しい時期が増えてきているなどの新たな課題もある。	◎	・体育や行事などの実技指導でもICTの活用が進み、児童が楽しみながら取り組んでいる。 ・外部環境の変化に対応するための環境整備は、学校の自動努力だけでは、対応が難しいが、計画的に進めて欲しい。
			・家庭と連携し、食育・眠育を軸とした「家での7つの約束」を推進し、基本的な生活習慣の確立を図る。(早寝早起き・朝ごはんの定着)	・早寝早起き・朝ごはん等の基本的な生活習慣を定着させる取組	・実施状況(定着させる取組の状況等)	11月 1月～2月	△	・早寝早起き・朝ごはんが定着するよう指導、掲示、お便りで啓発する取り組みを行っているが、基本的な生活習慣の確立には至っていない。特に遅刻しない生活習慣の確立が課題であり、より一層の家庭と連携が必要である。	△	・早寝早起き・朝ごはんが定着するよう指導、掲示、お便りで啓発する取り組みを行ってきたが、基本的な生活習慣の確立には至っていない。遅刻、居眠りなど課題がある児童については、家庭との連携して個別の指導を強化したことにより、徐々に改善が見られるようになった。	△	・学級担任や養護教諭を中心として、早寝早起き朝ごはんなどの基本的な生活習慣の定着を進めている。
地域協働	信頼される学校	学校・家庭・地域が連携・協働する教育を推進し、信頼される学校づくりに努める。	・学校の教育活動を積極的に公開・発信する。 (校報いちょう、HP、テトル等の活用)	・学校HPの内容の充実とタイムリーな情報発信	・実施状況(更新、ページリニューアルの状況、回数、アクセス数推移・変化等)	1月～2月	◎	・ホームページについて、アクセシビリティの見直しを図るため、7月にデザイン、カラー、フォントのリニューアルをほかに、8月にカレンダー機能等を充実させ、ホームページのアクセス数を高めながら、学校の教育活動を積極的に公開・発信している。	◎	・ホームページについて、アクセシビリティの見直しを図るため、7月にデザイン、カラー、フォントのリニューアルをほかに、継続的に機能等を充実させるリニューアルを行うことにより、ホームページのアクセス数を高めながら、学校の教育活動を積極的に公開・発信することができた。	◎	・リニューアルなどにより、見やすく、内容を充実させ、学校の教育活動を積極的に公開・発信していることがアクセス数の増加に繋がっている。
			・出前講座のプログラムや外部の教育資源を積極的に活用する。 ・地域と連携・協働した教育活動を行うための人材発掘を行う。	・外部プログラム及び読み聞かせ活動、防災教育、町探検等の地域人材の協力を得た取組	・実施状況(外部プログラム等の活用状況・回数等)	1月～2月	◎	・昨年実施していない新たな6つの企業、団体などのプログラムを含めた9つのプログラムの出前授業を実施(11月までの実績)するほか、教育活動を充実させる外部資金も獲得し、外部の教育資源を積極的に幅広く活用している。 ・塚打刃物伝統工芸士会をはじめとする校区内の産業団体や防災士などの有資格者と連携・協働した教育活動を企画・実施することにより、教育活動を行うための新たな人材発掘を行っている。	◎	・昨年実施していない新たな9つの企業、団体などのプログラムを含めた14つのプログラムの出前授業を実施するほか、教育活動を充実させる外部資金も獲得し、外部の教育資源を積極的に幅広く活用することができた。 ・防災士などの有資格者をはじめとする校区内の方々や塚打刃物伝統工芸士会産業団体ほかの団体と連携・協働した教育活動を企画・実施し、教育活動を行うための新たな人材発掘を行うことができた。	◎	・児童が学んでみたいと興味を持つ実践的な授業が、新たな外部プログラムの活用により充実している。 ・防災教育や伝統産業(刃物)の学習など、校区の地域人材、強みを活かした学習がこれまで以上に進んでいる。

<p>校長より(年度末)</p> <p>・令和7年度の重点目標とした、安全・安心については、地域との連携、協働、外部資源の活用により、防災教育、通学時の安全などの充実を図ることができた。子ども一人ひとりの居場所については、経験学習や自然、文化・伝統、芸術に親しむ新たな外部プログラムや体育的行事により、児童一人一人が学びを楽しむ多様な居場所・機会を創出した。また、月洲学校群の公開授業に「チーム錦西」の全教職員で取り組み、それぞれの持ち場で、研究、教育を実践、蓄積することができた。次年度に向けては、日頃から本校を支え、児童を見守ってくださっている地域、保護者から、より信頼される学校づくりを目指して、共に連携、協働し校区の次世代を担う児童を育成していく「共育」に取り組んでいきたい。</p>	<p>学校関係者評価者から(年度末)</p> <p>・月洲学校群の公開授業を機会として、ICTの効果的な活用、授業改善など多くの実践例を蓄積しているほか、新たな外部プログラムの活用や防災教育、伝統産業の学習など、他校にはない校区と連携し、校区の特長を活かした取り組みが行われ、堺市内外に発信できた年度であった。</p>
---	--